

世羅高等学校 第3学年 地歴公民科単元指導計画

1 単元名 第一次世界大戦と日本の経済・社会

2 単元の目標 第一次世界大戦前後の国際社会の変化や日本の経済・社会構造の変化から、第一次世界大戦の日本への影響を多方面から整理・評価し、第一次世界大戦を第二次世界大戦に至る国際環境の起点として捉えることができる。

3 単元の計画 (全9時間)

時	主な学習活動
1	【大正政変】 日露戦争後からの政治の動向を整理し、世論形成や民衆の運動により倒閣がなされたことに注目し、大正政変を藩閥政治の行き詰まりと民主政治要求の高まりとしてとらえ、大正デモクラシーの萌芽として民衆の政治的動きを考察する。
2・3	【第一次世界大戦と日本の中国進出、第一次世界大戦と日本経済】 第一次世界大戦の概要を整理し、大戦中の日本の外交と経済への影響から、大戦（参戦）への「日本の思惑」を中心に考察し、戦後の日本の外交の方向性を推察する。
4	【政党内閣の成立】 大正政変を機に高まった民衆運動の高揚とその理論的背景の形成と広まりを、第一次世界大戦の影響を中心に捉えながら、政府と民衆の乖離の状況を考察する。
5	【ヴェルサイユ条約と日本の外交、東アジアの動き】 第一次世界大戦への「日本の思惑」とヴェルサイユ条約の内容を比較し、欧米諸国（特にアメリカ）と日本の外交関係の変化を考察する。
6	【ワシントン会議と協調外交】 世界的な「協調外交」の潮流の背景を多角的に考察し、ヴェルサイユ条約後ワシントン会議が開かれた意味について意見を交換し発表する。
7	【第一次世界大戦と社会運動の勃興】 第一次世界大戦の日本経済や産業構造への影響と関連付けて社会運動の勃興について整理する。
8	【普選運動と護憲三派内閣の成立】 社会運動の勃興と普選への要求から護憲三派内閣の成立の流れを理解し、「憲政の常道」の時代を概観するとともに、選挙制度の改正の資料から、当時の日本社会の状況を読み解く。
9	【第一次世界大戦の歴史的意義】→ 本時 日本の政治、経済、外交、社会の視点から第一次世界大戦前後の事象を整理し、第一次世界大戦の影響について発表し、標榜されるようになった「協調」外交に潜む対立の可能性を推察する。 （日本と国際社会の動きを「対立」を軸に検証し、「対立」回避には何が必要であったか考察する⇒次単元）

4 本時の目標

両大戦間期を第二次世界大戦に至る国際環境を創出していく時期として捉え、第一次世界大戦の前後の日本の変化を4つの分野でワークシートを使って整理し、第一次世界大戦の日本への影響を明確にする。さらに第二次世界大戦につながるという事実から、第一次世界大戦による変化に内在する次の世界大戦の萌芽を推察することで、「協調」姿勢の頓挫の背景について考察し、発表する。

- (1) 第一次世界大戦の前後の日本社会の状況について、整理できる。
- (2) 第一次世界大戦の前後の日本社会の状況について、第一次世界大戦の特徴と関連付けて説明できる。
- (3) 第一次世界大戦の前後の日本社会の状況と第一次世界大戦の特徴から、各国が「協調」姿勢をとった当時の国際環境を指摘できる。
- (4) 当時の国際環境に内在する「協調」姿勢が頓挫する要因を導き出すことができる。

5 学習の流れ（9時間目／全9時間）

学習活動 (○発問, ●生徒の反応)	指導上の留意事項 (◇) ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て	評価規準〔観点〕 (評価方法)
<p>1 (既習事項から)</p> <p>○ 第一次世界大戦の結果, 世界は (国際関係は) どのようなになったか。</p> <p>● 平和になった。戦争をしないための組織ができた。戦争に懲りた・・・</p> <p>○ 「平和になった」のに第二次世界大戦が起こったのはなぜだろう。</p> <p>2 本時のめあての整理</p>	<p>◇ 4～5人でグループをつくる。</p> <p>◆ 単元の内容に沿って, 出していくように促す。</p> <p>◇ 個別事象を一般化した表現に替えて列挙していく。</p> <p>例) 国際連盟の成立 → 平和的解決と国際協力のための機関の成立</p> <p>◇ 第二次世界大戦までの時間軸を整理する (20年間を見通す視点がもてるようにする)</p>	
<p>本時のめあて：第一次世界大戦の反省の上に成立した「協調」を軸とした戦後の国際関係のどこに次の対立を生み出すポイントがあったのかを推察する。</p>		
<p>○ 第一次世界大戦の前と後で, 日本の政治, 経済, 外交, 社会, 文化はどのように変わったか, ワークシートに整理しよう。</p> <p>○ その変化はなぜ起こったのか, 理由を考えてみよう。</p> <p>● 政治…労働者階級の権利意識の高まり, 経済…工業国への転換, 外交…日本は五大国になった・「協調」外交になった, 社会…欧米の影響, 労働者の権利が拡大した</p> <p>○ 当時の国際関係が「協調」を目指したのはなぜだろうか。</p> <p>● 戦争の悲惨さが身に染みた, 財政的に戦争を避けたかった, 列強が協力して植民地の民族運動を押さえたかった等</p> <p>○ 「協調」が崩れる要因はどのようなことが想定されるか</p> <p>● 最初から本当は「協調」したくなかった, 「協調」の内容が公平でなかった, 我慢できないくらいに追い詰められた (経済・領土など)</p> <p>3 今後の学習に向けて</p> <p>○ 第二次世界大戦までの事象を, 「協調」が崩れる点に注目して整理し第二次世界大戦を回避する可能性を考えてみよう。</p> <p>4 振り返り</p> <p>単元のまとめとして, 振り返りシートを作成する。</p>	<p>◇ グループはエキスパートグループとする。 8班に分けるので, 1分野 2グループを充てる</p> <p>◇ 班でワークシートを作成したものをもう一つの班と共有し, より良いものに整理する。</p> <p>◇ それぞれの分野ごとに発表する。理由が不明確な場合, 質問して補填していく。</p> <p>◇ 4分野を混ぜた班編成にしてそれぞれの立場で, 「協調」が必要であった理由を考察し, 発表する。</p> <p>◇ 第一次世界大戦後の「協調」が内在していた対立の要因を考察し, どのような点に対立の要因が残っていたかを明確に発表させる。</p> <p>◇ 大単元の「(5) 両世界大戦期の日本と世界」の後半となる第二次世界大戦に至る内容が, 列挙された対立の要因に当てはまるかを確認しながら, 対立を回避する可能性とその方法に着目して, 学習を進めることを確認する。</p>	<p>・歴史事象を時期や分野で的確に分類し, 内容を理解している。【知識・理解】(ワークシート)</p> <p>・歴史事象の背景をもとに, 「協調」が進む要因を考察できる。【思考・判断】(行動観察・発表)</p> <p>・今後の学習内容に興味・関心をもち, 歴史を事象の積み重ねとして考察する意欲をもつことができる。【関心・意欲・態度】(ワークシート・発表・振り返りシート)</p>

